都城市議会議長　様

提出日　令和６年８月 13 日

視　察　報　告　書

以下のとおり視察の報告をいたします。

１　会派名及び視察者名

会　派：青雲

視察者：広瀬功三、神脇清照、迫間輝昭、川内賢幸

２　視察先・テーマ及び日時

地元選出国会議員等への要望「農業支援に関する要望」（詳細は別紙参照）

◎令和６年８月７日（水）　１３時３０分～１４時００分

要望先：東京都永田町　参議院会館　進藤金日子　参議院議員

対応者：政策秘書　豊　輝久　様

◎令和６年８月８日（木）　13 時 00 分～13 時 20 分

要望先：東京都永田町　参議院会館　長峯　誠　参議院議員

対応者：長峯誠　参議院議員

◎令和６年８月８日（木）　１３時５０分～１３時５５分

要望先：東京都永田町　衆議院会館　江藤拓　衆議院議員

対応者：事務所職員（要望書手渡しのみ）

◎令和６年８月８日（木）　１４時００分～１４時３０分

要望先：東京都永田町　衆議院会館　古川禎久　衆議院議員

対応者：古川禎久　衆議院議員

◎令和６年８月８日（木）　１５時００分～１５時２０分

要望先：東京都永田町　参議院会館　松下新平　参議院議員

対応者：松下新平　参議院議員

３　要望活動の趣旨

ロシアのウクライナ侵攻などの影響などにより、物価高や資材高騰が国民生活を直撃する中、本市の基幹産業である農業への影響が日に日に大きくなっている。

畜産分野においては、輸入飼料の高騰が経営を圧迫しており、それらの影響が競り価格や枝肉価格の相場全体に影響を与えている。

特に、和牛や酪農においてその影響が顕著に現れており、国の支援もあるが現場からは窮状を訴える声が多く寄せられている。

また、本市の PR ポイントでもある「肉と焼酎」のうち焼酎の原料となるかんしょにおいては、平成３０年から「さつまいも基腐病」によるダメージが広がり、作付面積の減少や離農などにより、焼酎の出荷制限がかかるなど多大なる影響が続いており、未だに病害が入る前の収穫量には達していない。加えて、新たな懸念材料も出てきており、今後の安定的な焼酎産地を守るためにも、国のさらなる支援が必要である。

４　要望の感想

地元選出の３名の国会議員に加え、農政畑に長年尽力されている県選出国会議員江藤拓衆議院議員、農林水産省出身で本市出身の御婦人をもつ進藤金日子参議院議員へ、農業支援に関する要望書を提出した。地元選出国会議員はいずれも本人、江藤議員は公務不在で事務所へ提出のみ、進藤議員は政策秘書対応となった。

要望の背景は前述のとおりであるが、各国会議員への要望活動の中で、国においては『食料・農業・農村基本法の改正法』が成立したこともあり、農業を取り巻く我が国の状況が今後数十年先に及ぶ転換期に来ていることがわかった。

今回の要望内容は大きく分けて「畜産農家への支援強化」と「さつまいも基腐病等の対策支援強化」の２つである。

「畜産農家への支援強化」については、以下の３項目を要望した。

１　国での政策として新型コロナウィルス禍での枝肉調整保管を取ったように、和牛農家支援策として枝肉調整保管も含め支援につながる事業を行うよう検討を。

２　飼料価格高騰対策のさらなる充実と国産飼料拡大につながる施策の充実・強化を図ること。

３　畜産経営の安定化に向け、支援強化につながる必要な予算を確保すること

「さつまいも基腐病等の対策支援強化」については、以下の３項目を要望した。

１　サツマイモ基腐病、茎根腐細菌病に対するかんしょ栽培への対応として、将来的な産地保全と効果的な防除への研究、取組、情報共有などを積極的に行うこと。

２　サツマイモの害虫である「ムツスジアシナガゾウムシ」の発生が、昨年度、鹿児島県で初確認されており、基腐病に次ぐかんしょ栽培への懸念事項となっている。「ムツスジアシナガゾウムシ」に対する登録農薬がないため、鹿児島県の事例などを踏まえ、現状で対応しうる、より効果的な農薬配合や登録農薬の研究、対策への情報共有などを行うこと。

３　甘味資源作物生産支援対策として、サツマイモ基腐病の次期作への影響を最小にしながら、かんしょの持続的な生産を行うための取組に支援をいただいているが、さらなる支援拡大と病

害虫対応や生産性向上への取組に対するより一層の支援を行うこと。

畜産支援については、いずれも現場の窮状をご理解いただいており、各種予算をつけながら、現状で対応しうる最大限の対応を取っているとのことであった。

一方で、現状での農業支援は農家の所得補償に重きがおかれていることから、今後、国土保全も含めた農業支援の在り方を考える場合、「国民の食料保障」という考え方にシフトしていくことを、各議員との意見交換で感じた。

この変化に対応して行くためには、国の主導だけではなく、我々地方議会、地方議員、そして農家の方々へ、これまでの農業に対する考え方の転換が求められることから、情報提供や密な連携も必要であることを訴えた。

さつまいも基腐病等への支援については、国を上げて対策を強化いただいていることは承知しながらも、現状として、現場が手探りで対応していることや、国の補助事業の使い勝手において、現場の声、昨付実績や病気発生率などを盛り込みながら説明させていただいた。日本の焼酎どころが置かれている現状については、十分ご理解を頂いているが、今後の影響や対策について、意思疎通を図ることができた。

５　要望の成果及び市政への反映等

地元国会議員への要望は、地方議会、地方自治体のみならず、各種団体なども行っている要望活動である。国においては、国会議員を始め各方面からの要望活動に対応している。「国」としてどう対応するかというくくりで言えば、今回の地元国会議員に対する要望は小さな働きかけとも言える。

しかしながら、地方議会人として、地域の声を聞き、地元自治体に訴えるのみではなく、今回のような地道な活動を通じて、地域の実情や何に困っているか、どういった取り組みが必要とされているかを要望することは非常に重要であると改めて感じた。

議会としては、意見書という形も用意されているが、こういった活動も重要であり、場合によっては、関係機関や団体との連携を図り、チームとして動くことも必要ではないかと感じる場面もあった。

いずれにしても、国と地方との情報共有や連携は非常に重要であり、今回の要望活動が何かしらの形で結実していくことを心から望むものである。

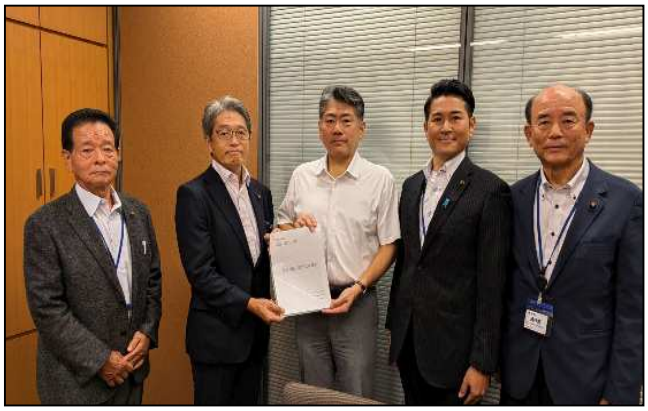
要望活動の中で交わした意見や、要望内容に対する見解等については、市の関係各課に情報共有を行いながら地方課題の解決に会派として引き続き取り組んでいきたい。

6　添付資料（写真は訪問順）

進藤金日子　参議院議員事務所　8/7

長峯誠　参議院議員　8/8

江藤拓　衆議院議員事務所　8/8



古川禎久　衆議院議員　8/8

松下新平　参議院議員　8/8

畜産農家への支援強化について

現在、全国和牛農家並びに酪農家のおかれる現状はロシア、ウクライナの長引く争い影響下により、円安で原油、穀物、粗飼料等の高騰が著しい状況です。「物価高で消費の減退が長期化」し、畜産農家への影響は甚大であり、特に和牛枝肉下落、子牛せり価格下落並びに酪農危機を招いている状況です。

令和６年度７月の東京食肉市場の和牛枝肉（去勢 A5）の加重平均価格は、1kg 当り 2,339 円（消費税込み）となり、新型コロナウイルス禍にあった 2020 年同月を下回った状況となっています。

また、都城家畜市場の子牛せり市の平均価格は、直近の令和６年度 7 月開催分において 526,157 円となっており、令和６年度で最も低い価格となりました。

さらに、この平均価格は概ね平成 25 年度の平均価格に近いものとなっており、このような状況が続けば、口蹄疫明けの平成 23 年度水準の４０万円台まで落ちる可能性も否定できない状況です。

あわせて、酪農においては、経営を側面から支えてきた肉用子牛の価格低下と輸入飼料の高騰が続き、負のスパイラルによる酪農危機が起きています。

今後も、枝肉価格下落、子牛価格下落、飼料等の高騰が続けば、和牛農家並びに酪農家の方々においては、物価高騰による経営上の価格転嫁が厳しくなり、離農が増えてくると思われます。 当然ながら、養豚、養鶏、採卵鶏等についても飼料高騰、資材高騰等による影響が随所に出ている状況です。

このような背景から、国において次の事項について特段のご高配を賜りますようお願いいたします。

記

１　国での政策として新型コロナウィルス禍での枝肉調整保管を取ったように、和牛農家支援策として枝肉調整保管も含め支援につながる事業を行うよう検討を。

２　飼料価格高騰対策のさらなる充実と国産飼料拡大につながる施策の充実・強化を図ること。

３　畜産経営の安定化に向け、支援強化につながる必要な予算を確保すること。

以上

令和６年８月８日

宮崎県都城市議会

会派青雲　広瀬功三　神脇清照　迫間輝昭　川内賢幸

サツマイモ基腐病等の対策支援強化について

サツマイモ基腐病は、他の病害に比べて感染力が強く、短期間で被害が拡大し、多発した圃場では大幅な減収がみられるなど重大な被害をもたらします。

宮崎県では平成３０年度の発生確認後、被害が続いており、被害防止・軽減が大きな課題となっています。都城市でも同様に、平成３０年度から発生し、現在も発生実面積割合が拡大傾向にあり、防除対策を行っているものの、農家によっては、サツマイモの作付けを辞める方や離農する方もみられる状況となっています。

都城市では、全国１位の焼酎出荷額を誇る霧島酒造株式会社をはじめとする焼酎蔵元が多数あり、サツマイモ、特に焼酎原料用かんしょの基腐病などの被害は深刻なものとなっています。この影響から焼酎の出荷制限や病気に強い品種への切り替えにより、商品の味が変わるなど対応に苦慮している状況です。

また、霧島酒造株式会社については、この危機的状況を乗り切る方策として独自の「霧島さつまいも育苗センター：イモテラス」を建設し、基腐病などにつながる菌やウイルスが検出されない茎頂を切り出して培養した苗を育成し、健全なるサツマイモ苗を生産農家へ供給する取組を昨年度から始めています。

国においては、甘味資源作物産地生産体制強化緊急対策事業を展開いただいているところですが、南九州における焼酎原料かんしょへの病害対策、生産向上対策のより一層の支援が必要な状況です。

このような背景から、国において次の事項について特段の御高配を賜りますようお願いいたします。

記

１　サツマイモ基腐病、茎根腐細菌病に対するかんしょ栽培への対応として、将来的な産地保全と効果的な防除への研究、取組、情報共有などを積極的に行うこと。

２　サツマイモの害虫である「ムツスジアシナガゾウムシ」の発生が、昨年度、鹿児島県で初確認されており、基腐病に次ぐかんしょ栽培への懸念事項となっている。「ムツスジアシナガゾウムシ」に対する登録農薬がないため、鹿児島県の事例などを踏まえ、現状で対応しうる、より効果的な農薬配合や登録農薬の研究、対策への情報共有などを行うこと。

３　甘味資源作物生産支援対策として、サツマイモ基腐病の次期作への影響を最小にしながら、かんしょの持続的な生産を行うための取組に支援をいただいているが、さらなる支援拡大と病害虫対応や生産性向上への取組に対するより一層の支援を行うこと。

以上

令和６年８月８日

宮崎県都城市議会

会派青雲　広瀬功三　神脇清照　迫間輝昭　川内賢幸